

項 目	作 業 内 容
<p>(3) 林野火災の防止について</p> <p>① 林野火災の原因</p> <p>② 林野火災の防止について</p>	<p>再生が難しくなる。これを復旧するためには、多額の費用と多くの労力、長い時間が必要となる（写真1）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>航空実播工</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>H21.7の全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>H26.7の全景</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>火災の様子 (R7年3月)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>火災直後の様子(R7年4月)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山腹緑化工の取組み</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">写真1 大規模林野火災と火災跡地の復旧状況</p> <p>令和5年度の全国の林野火災件数は1,299件で、その出火原因は「たき火」によるものが416件（32.0%）と最も多く、次いで「火入れ」247件（19.0%）、「放火の疑い」98件（7.5%）の順となっている（消防庁 令和6年度消防白書）。</p> <p>林野火災の原因は、前述のとおり人為的なものがほとんどである。森林利用者1人1人が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと ・ たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること ・ 气象台等から発せられる気象情報や火災気象通報に気を付け強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと ・ 喫煙は指定された場所で行い、吸い殻は投げ捨てしないこと ・ 林業関係事業者は、日頃から作業者に注意喚起と火気管理の徹底について指導をすること。 <p>など、出火防止の徹底が何よりも重要である。 火災が発生した場合には、速やかに消防署等へ連絡を入れて下さい。</p>

（作成 林業研究センター）